



下大和田谷津田だより



2004年2月号

第48回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

1月4日 晴れ

暖かいほかほか陽気の新春の谷津田でした。しかし、日の当たらない畦には5cmほどの霜柱が立ち、田んぼには氷が張っていました。春の七草をテーマに探しながら歩きましたがセリとハハコグサが見られただけでした。本来は旧暦七日なので少し早かったのかも知れません。もう卵を産む準備に入ったのかお腹がぼんぼんに膨らんだニホンアカガエルが水たまりにいました。今月末には卵塊が見られるかも知れません。大塚さんの田んぼの湧水の周り和田んぼ脇の細流ではメダカが姿を現していました。何に襲われたのかキジバトとジョウビタキと思われる羽毛が散乱していました。観察会で一巡りした後、田んぼ脇の斜面林の中のゴミ拾いをしました。粗大ゴミなど不法投棄されたものであつという間に山のように集まりました。

開花植物：ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、オニノゲシ、オオイヌノフグリ、タネツケバナ、昆虫：姿を見ませんでした。他：メダカ、フナ、カワニナ、ニホンアカガエル。鳥：エナガ、シジュウカラ、ウグイス、ヒヨドリ、セグロセキレイ、カシラダカ、ダイサギ、モズ、ハシブトガラス、アオジ、ジョウビタキ、ホオジロ、キジバト、ツグミsp。

(参加者：大人13人 子ども1人 報告：網代春男)

第32回谷津田プレラッド・プロジェクト(YPP) どんど焼きと昔あそび

1月10日 晴れ

2004年最初のYPPは恒例のどんど焼き。苦勞して火起こしをして着けた火はあつという間に大きな炎となり、太い竹がはじける音が心地よく谷津に響き渡りました。棒の先にパンやマシュマロをつけて焼くのは子どもたちに人気。サツマイモも火に入れて焼きました。時計型ストーブで薪を燃やして焼いたお餅や魚は最高。豚汁は内側から体を温めてくれました。どんど焼きの周りでは、参加者が作ってきてくれた竹馬、笹や枯れたセイタカアワダチソウを使った弓矢、倒木の杉を使った丸太切り競争などなど、さまざまな遊びに子どもだけでなく大人も興じました。一昔前、斜面林を下って遊んだという「ジャージャー車(坂車)」という木の車を地元に住んでいらした方が作って下さり、子どもたちに人気でした。今回のYPPは、谷津田レンジャー養成講座との併催で、地元の方から一昔前の谷津田に関する興味深いお話を伺うこともできました。また、最後に冬鳥ウォッチングをして、アソ原に集まるかわいい小鳥たちを観察しました。

(参加者：大人34人・小学生～高校生18人・乳幼児6人、報告：高山邦明)

畦作り

1月25日 晴れ

同じ下大和田の谷津田で様々な米作りにチャレンジされている反田さんにお手伝いいただき、みんなの田んぼの畦を補修しました。大きく崩れた畦を一度全部壊して、土嚢をきれいに積んで作り直しました。いくつかのコツを教えてもらい、とてもしっかりした畦に変身し、今年は安心して米作りができそうです。午前中は谷津田で米作りをしていた林さんのおじいちゃんから昔の田んぼの様子を聞き取りました。伝統的な米作りの方法や古い土地の呼び名など、貴重なお話をたくさん伺いました。

(参加者：大人9人・小学生～高校生3人 報告：高山邦明)

下大和田季節のたより

1月10日 アソ原にエナガ、シジュウカラ、メジロがたくさん集まっている。アソの皮の内側にいるカイガラムシを食べているらしい。台地の上の畑の上空を飛ぶオオカの飛翔を確認。

1月25日 オオカがカスを襲うのを目撃。頭と翼、脚と腰骨の一部しか残っていない生々しい食痕を観察。谷津田の上空ではカスにヒンクされるカスの姿も。

2月1日 大塚さんの田んぼに一つ、今年最初のアカガエルの卵塊を確認。水がわき出す暖かい場所だった。

(報告：高山邦明)

オオカに襲われた生々しいカスの残骸をみんなで観察しました。一見、のどかで平和そうに見える谷津田ですが、生きものたちにとってはとても厳しい世界であることを実感しました。さて、いよいよ今年もアカガエルの産卵がはじまりました。今年は何れくらいの卵塊が見られるのでしょうか？冬の谷津田も驚きや興味の対象で一杯です。

高山邦明